九州ありあけ故郷（ひのくに）の風景～雲仙岳百景Ⅱ～フォトコンテストの優秀作品（受賞作品）

【サブテーマ①　平野・干潟（佐賀・福岡）と雲仙岳】



応募者　：草野　俊彦さん（長崎県南島原市在住）
タイトル：冬空の雲仙
撮影場所：太良海岸　　撮影時期：2014 年 12 月 25 日
コメント：平成新山の溶岩流は冷え切ったのだろうか? 雪化粧になり高山のような連峰を思わせる。



応募者　：渕上　久男さん（長崎県諫早市在住）
タイトル：笠雲を冠する雲仙岳
撮影場所：佐賀県白石町深浦　　撮影時期：2011 年 11 月 21 日
コメント：夜が明けると共に、期待していた朝焼けが無く、僅かに紅い色に染まる中、綺麗な笠雲が雲仙岳の上に、現れました。珍しい現象です、消える前にと急いで撮影しました。雲仙岳の形状は、鼻の低い人が、口を開けて寝ている横顔のようです。額の上に、杯を載せているようです、酔っぱらったのでしょうか。



応募者　：富安　一夫さん（福岡県八女市在住）
タイトル：夕闇迫る雲仙岳
撮影場所：福岡県柳川市沖の端漁港　　撮影時期：2012 年 12 月 20 日
コメント：冬の有明海は海苔で有名ですが、そのための船の発着場である沖の端漁港とノリヒビの向こうに聳える黄昏の雲仙岳をテーマに撮ってみました。雲仙岳の形状は、迫り来る怪獣のようです。



応募者　：中村　俊明さん（福岡県福岡市在住）
タイトル：JR 特急かもめ　車窓からの雲仙岳
撮影場所：JR 長崎本線（佐賀県太良町　多良駅～肥前大浦駅区間）　　撮影時期：2015 年 10 月 6 日
コメント：車窓から切り取った雲仙岳は、広い干潟や有明海を守る山のように感じました。また、山頂からなだらかに海に下がる稜線は今にも動き出しそうな船のようです。



応募者　：藤松　政晴さん（佐賀県白石町在住）
タイトル：秋空の下で
撮影場所：佐賀県藤津郡太良町（道の駅太良）　　撮影時期：2015 年 10 月 14 日
コメント：この日は、有明海で一斉に海苔の種付けが解禁され、何か所か海苔網の写真を撮り終えた後、トイレ休憩に寄った道の駅からの一枚です。きれいに干潟が現れて秋らしい大きな空の色が干潟に映り、また夕方の赤い日差しが棚じぶに斜めに差し掛かっていい感じになりました。特に雲仙岳の形は何かに見えはしませんが、手前の太良の山肌に比べて高くて尖ったその男らしさは、自分の好みの山の形です。



応募者　：大坪　俊治さん（佐賀県小城市在住）
タイトル：残照に浮かぶ雲仙岳
撮影場所：佐賀県佐賀市　佐賀空港付近　　撮影時期：2015 年 10 月 18 日
コメント：日没寸前の雲仙岳です。佐賀市方面からの撮影は常に逆光になり、山々の輪郭がはっきりしません。何とか夕暮れ時を狙って挑戦してみました。雲仙岳の形状は、涅槃像のお腹の部分のようです。



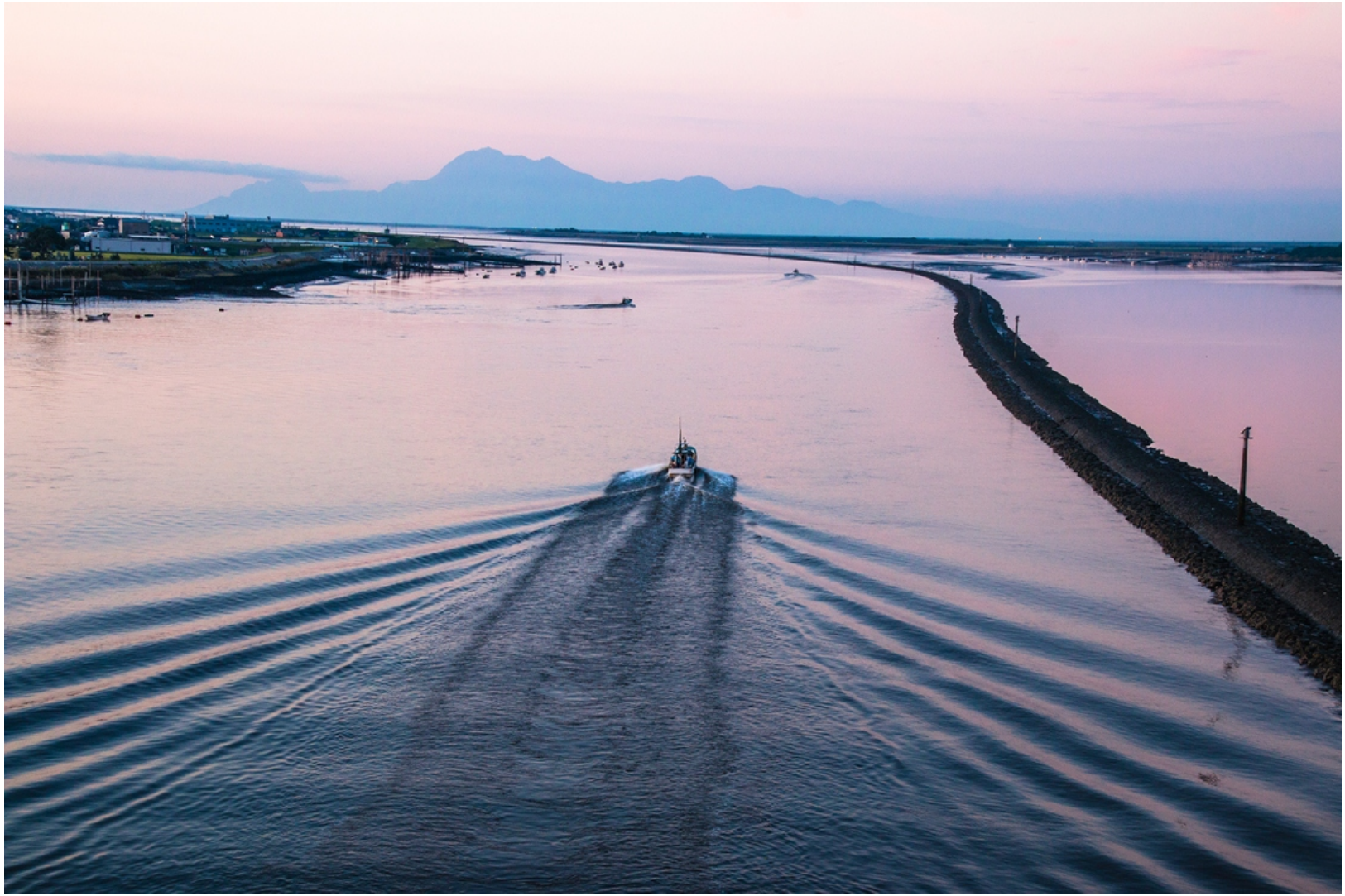
応募者　：加藤　美樹子さん（千葉県船橋市在住）
タイトル：美しい雲仙岳フォルム
撮影場所：福岡県大牟田市上空（飛行機内から）　　撮影時期：2015 年 7 月 8 日
コメント：佐賀の実家へ帰省する際、機内からこの景色が見えてくると、ホッとすると同時に帰ってきたな～っと実感します。
船橋では山々が全然見えないので、帰省したら九州は山と海に囲まれて美しい所だなと再認識します。
観音様が横たわっているように見えます。



応募者　：大坪　俊治さん（佐賀県小城市在住）
タイトル：干潟の野鳥と雲仙岳
撮影場所：佐賀県佐賀市東与賀付近　　撮影時期：2016 年 1 月 14 日
コメント：ラムサール条約登録地、佐賀市東与賀干拓から望む雲仙岳です。冬空のどんよりした天候の中、今年も沢山の渡り鳥が飛来しています。野鳥を背景に雲仙岳を取り込みました。佐賀平野から望む雲仙岳は涅槃像のお腹の様です。



応募者　：福田　幸夫さん（佐賀県吉野ヶ里町在住）
タイトル：天空の蓬莱山
撮影場所：吉野ヶ里歴史公園　　撮影時期：2015 年 11 月 11 日
コメント：吉野ヶ里から雲仙までは 60 キロもありますので、天気の状態が良くないとなかなか見れる機会はありません。今回は天気に恵まれましたので、展望のいい南内郭の物見やぐらの上から撮影しました。吉野ヶ里の環壕集落内の北内郭に建つ主祭殿は、雲仙が真南になるように設計して建てられています。これは、三世紀の吉野ヶ里の人々が雲仙を神の山と崇めていたからではないでしょうか。今も昔も雲仙は偉大な山です。そんな思いで撮りました。雲仙岳の形状は、雲に浮かんだ神秘の山のようです。



応募者　：加藤　光夫さん（福岡県太宰府市在住）
タイトル：出漁Ⅰ
撮影場所：福岡県大川市　　撮影時期：2015 年 10 月 3 日
コメント：雲仙岳は柳川沖の端の方言では“どんばらさんが寝とる”と、子どもの頃は言っておりました。“どんばらさん”とは“妊婦さん”との意味です。漁師は、海の神様は“女神”ですから、自然に船の安全と豊漁を祈って、言っていたのではないかと思います。今日有明海は多くの課題を抱えております。今日有明海は多くの課題を抱えております。我が実家は漁師一族ですので、日頃から昔の豊穣の海に再生することを願ってやみません。常日頃有明海に関心を持ちながら、行末に思いを馳せながら撮影しております。



応募者　：平河　剛さん（福岡県大牟田市在住）
タイトル：炭都から見える険しい雲仙岳
撮影場所：大牟田市黄金町潜塚古墳　　撮影時期：2015 年 12 月 18 日
コメント：左隅に近代世界遺産三池炭鉱・万田坑のヤグラが見える。雲仙岳の形状は、出産前の妊婦さんのように見える。